



夔州縣
史編纂
係亡印

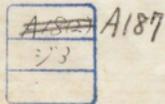
鳳凰山甚目寺畧緣起

187
シ'3



尾張國海東郡甚目寺畧縁起

當山本尊正觀世音菩薩とヤもるハ大聖
釋迦世尊毘舍羅國大林精舎小御座し時
國中惡病起りて人民遁る者なく長者月蓋
息女も此惡病を受得り時ハ長者悲歎の終り
世も不請ひもつれハ則世告曰西方極樂
彌陀如来と云御坐り此如来此御願力なりてハ



汝が女の病癒るも亦是小おいて長者一心を念し
まうればハ一光三尊光哉放ちて長たう家小影向し
とすハ息女が病立所小平癒長者歡喜不堪とし
あ如来に随喜しとすハ世尊月蓋三惡念忽ふひる
かつし事を憐み多し闇浮檀金哉瑠璃此鉢了
かりて二尊光明を放ちてハ自一光三尊形像出現
しむつ其後三像百濟國小渡らせ多し子餘未だ聞

化益し多ししが一夜彼國主小靈夢あり多大同本國に
ととを移し衆生哉大小濟渡しとほり、漸十九年
を移く守屋大臣、惡逆より難波の池ふ入水し多う
其後三十六年を過て 推古天皇御宇四年たらし
伊勢國甚目村、甚目龍麻呂と去者あり或夜
海邊に遊漁し多當所た入江、今の觀音池是あり、小あり網を下
せし、網中より金色の光明赫奕し敬馬多引上

是城これハ紫金あきに觀世音菩薩くわんぜいおんぼさつを御坐ござする龍曆りゆうりつ歡喜くわんぎ
踊躍おどどして此地このちに滞とどまり堂宇どううを建立けんぎんし寺号てらごうを甚目寺じんめつじと
稱なづし即すなはち額がく取と南門なんもんに揚ありき然しかるふ 同帝どうてい卅五年じゅうごねんふ
當あたり難波なんばの池いけより出現しゆげんれ一光いっくわう三尊さんそんの尊像そんざうハ信州
水内郡すいなんぐん小草創こそうそうれ善光寺ぜんくわうじに安置あんじしなれり其砌そのせき龍曆りゆうりつ
感得かんとくの尊そんハ彼か一光いっくわう三尊さんそんれ眼士がんしと云いふよしハ
觀み聞きありぬ乃善光寺ぜんくわうじ小秘こひに是こゝハ當山たうざん又ハ聖德太子せいとくたいしに

御作ごさく土佛どぶつに十一面觀世音菩薩じゅういちめんくわんぜいおんぼさつを本尊ほんそんと山宗あかみめ
むもふ不思議ふしぎあるうぬ兼かち善光寺ぜんくわうじ小秘こひにれちりし
此こゝ系けい金きんに尊像そんざう程ほどあり當山たうざんふかへとめふ是こゝ故ゆゑふ紫金あきの
尊像そんざうを秘藏ひかくに本佛ほんぶつと山宗あかみめ土佛どぶつの尊像そんざうと前立まへだちと
さる奉ほうふ 今般闍帳こんぱんせつちやうの尊像そんざう是こゝち 右みぎに故ゆゑありによりて聖德太子せいとくたいしに
靈像りやうざうを刻きて堂内どうないに安置あんじしむる 今後堂こんごうだうの形像けいざう是こゝ也 次つぎに
天智天皇てんちてんわう例れいありて御坐ござする遙とほふ當山たうざん北觀音きたくわんおんの

靈威を 敷聞ありて 勅願ありては 立所ふ平癒し
るふ是ふより 尤小舟兼盛哉 勅使として 勅願寺に
綸旨を下し 且天下太平に 三種の神寶を
勅附し 次ふ 天武天皇に 御宇白鳳八
己卯年 宣命ありて 三間四面に 樓門を御建立あり又
鳳凰山の 勅額を賜ふ 即東門に 掛くとや 門とよ
所此門の 次ふ 文徳天皇 堀河院 崇徳院 御代々々
古跡あり

よも 江北の 弥陀堂

今光明坊の
本尊是なり

江西に 釋迦堂

今釋迦堂に
本尊是なり

江上の 地藏堂 寺諸伽藍 御建立 全備し 多威光 他山ふ
越えし 回録地 震れ變易 一とら 凡ほ ひとと亡ひ さん
とま 然る 小本尊の 靈運 につ 新あり 後鳥羽院

此御宇 建久七 丙辰年 二月 當山中 興閑山 聖觀上人
十方を 勸進し 再建 成企 ありて 土御門院の 御宇
建仁元年 辛酉 十一月 棟梁 せしめ 畢 此時の

即今此佛
閣是あり

勅使大膳太夫安部資元朝臣とて、か往昔こゝろの
かふる靈驗あらむ。な。御佛ふれ。東照神君も
三百石の寺領に寄せ賜ふ。是よりして諸人結縁往生
成佛の利益を得さむ。開帳せしむるものなり。

文化二年乙丑二月